

JAPAN KID'S TAG RUGBY CHAMPIONSHIP

第18回全国小学生タグラグビー大会

予選・ブロック大会
実施概要書

令和3年
公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
全国小学生タグラグビー大会運営部会

はじめに

いつも全国小学生タグラグビー大会へのご協力をいただき誠にありがとうございます。

2021年度も新型コロナの感染の影響を受けております。特に小学生の間でも感染が広がる事例が報告されるなど予断を許さない状況にあります。小学生が多数集まる本大会は新型コロナの感染拡大の影響によりこれまでと同等規模の大会を実施することが困難であります。

しかしこのような環境下の中であってもタグラグビー大会を開催すべく検討を重ねてまいりました。これらの変更は新型コロナで影響を受けております、**第18回全国小学生タグラグビー大会のみ変更**とし、次回以降の大会については様々なご意見をいただき決定をしてまいります。

感染予防対策として

- ・1チームの構成人数を削減し感染リスクを減らす。
 - ▶1チームを競技グラウンド内にいる4名のプレーヤーと入替可能な2名以上4名以下のプレーヤーとする。

- ・グラウンドのサイズを変更し多面展開し、グラウンド全体で同時に行う試合数を増やすことで大会自体の時間を短縮し、滞在時間を短くすること。
 - コート間を十分なスペースを取ることによって感染のリスクをこれまでよりも下げる。
 - ▶グラウンドサイズは横14m ×縦20m（ゴールラインからゴールライン）、インゴール（ゴールラインからデッドボールライン）は各5mずつとする。なお、競技場により、上記グラウンドサイズは主催者の判断で、増減することがある。

- またコロナ対策とは別に、全国大会の開催時期から、東北、北海道の多くの地域で予選大会が体育館での開催であることも考慮しております。

- ・試合時間を変更し大会全体の時間を短縮する。
 - ▶1試合を5分ハーフとする

- ・前項の考えと同様で、全国大会を1日で完了できるようにすること
 - ▶可能な限り宿泊を伴わずにチームが参加をできるようなタイムスケジュールを作成する

各地域の予選会においても、ミニラグビーにおける1日当たりの試合時間の制限（中学年50分、高学年60分）から、5分ハーフのゲーム5試合以内で代表チームが選考できるよう組み合わせを行うこと。

2022年度2月に向けて感染状況や医療状況などを十分に考慮し、プレーヤーの安全を確保できるよう専門家とも検討を重ね全国大会の実現を目指してまいります。

大会概要

決勝大会名称	第18回全国小学生タグラグビー大会
目的	全国各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、スポーツの意義を実感することを目的とする。
主催 主管	(公財)日本ラグビーフットボール協会 関東ラグビーフットボール協会 関西ラグビーフットボール協会 九州ラグビーフットボール協会 各都道府県ラグビーフットボール協会
後援	スポーツ庁、朝日新聞社
協賛	サントリーホールディングス株式会社、株式会社シミズオクト、株式会社BLK JAPAN、株式会社三井住友銀行
競技規則	(公財)日本ラグビーフットボール協会、タグラグビー標準競技規則をもとにした大会規則とする。
出場資格	小学生4～6年生(日本の学期制による)1チーム・6～8人とする。

大会方式

・決勝大会

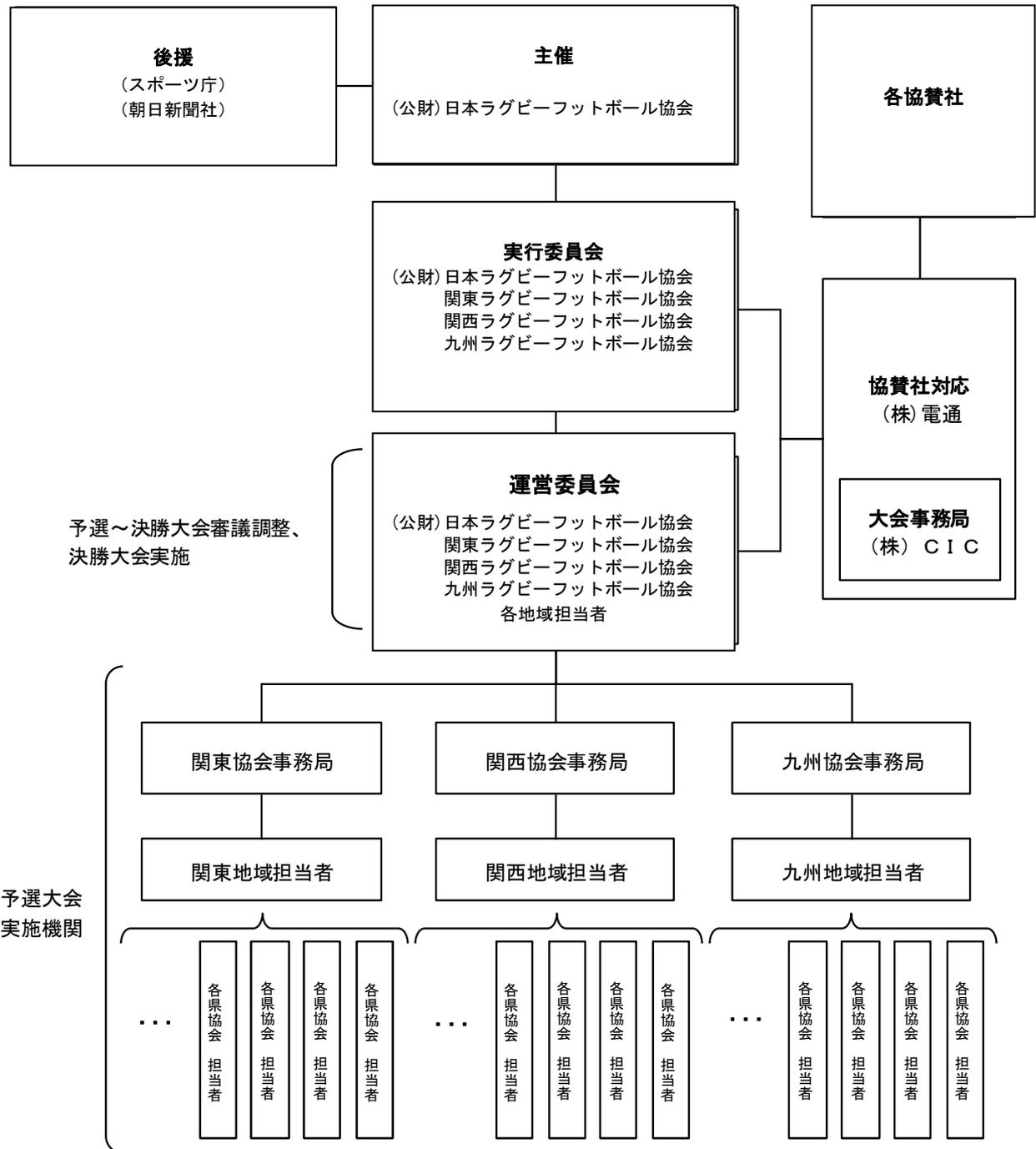
期 間 2023年 2月12日、13日(予定)
会 場 アミノバイタルフィールド

・県予選・ブロック大会

期 間 2021年9月～2022年2月 予定
会 場 各主管団体で決定 ※体育館などの屋内施設での開催も可能とする。

今回の大会は新型コロナの感染拡大の影響により、これまでと同等規模の大会を実施することが困難であると思われる。感染状況や医療状況などを十分に考慮し、プレーヤーの安全を確保できるよう専門家とも検討を重ね全国大会の実現を目指していく。

大会組織図



都道府県予選・ブロック大会実施要項準則

大会名称 第18回全国小学生タグラグビー選手権大会地区予選大会

目的 全国各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、スポーツの意義を実感することを目的とする。

主催 (公財)日本ラグビーフットボール協会

主管 各地域ラグビーフットボール協会、各都道府県ラグビーフットボール協会

後援 スポーツ庁、朝日新聞社 (以下、地域毎の後援団体)

協賛 サントリーホールディングス株式会社、株式会社シミズオクト、株式会社 BLK JAPAN、株式会社三井住友銀行 (以下、各地域の協賛団体)

期間 各大会にて決定

会場 各大会にて決定

競技規則 (公財)日本ラグビーフットボール協会タグラグビー標準競技規則に基づく大会規則に準ずる。

競技方法 プール戦とトーナメント戦の併用を基本とするが、参加チーム数により決定する。

参加資格 (1) 小学生4~6年生(日本の学期制による)で編成したチームで、学年の編成内容は問わない。
(2) 原則、単一小学校の参加とする。但し、タグラグビー普及の地域差等により単一小学校でチームが組めない場合は、各都道府県の判断で出来るだけ多くの小学生が参加できるよう参加資格の調整を可とする。
(3) 参加チームは成人2名が必ず帯同コーチとして引率し、登録選手の保護者から参加の承諾を得ていること。また、大会要項その他主管団体の定める大会規則の遵守を誓約すること。
(4) 帯同コーチは当該チームを指導掌握し、責任を負う事の出来る者であること。但し、予選大会において帯同コーチが複数のチームを兼任する事は構わない。
(5) 帯同コーチは所属小学校長(複数であれば総て)の承認を受けていることが望ましい。但し、必ずしも小学校長の承認がなくても、帯同コーチの責任において参加することも可能とする。
(6) 参加登録費(保険料含む)を納める。
※ 各協会にて調整可。
※ 参加資格について不明の点は三地域協会、または大会事務局にお問い合わせください。

罰則 大会要項、大会諸規約、競技規則について、違反などスポーツマンシップに反する行為があった場合は厳重な処罰を行う。

安全対策 (1) 大会期間中は主管団体が所定の救急指定病院を定める。
(2) 大会期間中は、主管団体が担当医師及びメディカルスタッフ、ウォーターボーイを任命する。
(3) 試合中の傷害について、当日の応急の医療処置は主管団体が施すが、事後処理はチーム及び保護者が行うものとする。
(4) 大会期間中の保険は主催者(JRFU)でまとめて加入する。

健康管理 (1) 大会参加にあたっては、当該チームにて予め健康管理を行い、充分留意すること。
(2) 試合中以外での病気傷害についてはチーム内で処理すること。
(3) 参加選手は必ず保険証またはそのコピーを持参すること。

肖像権 大会出場選手の肖像権は主催者にあるものとする。
※公式ウェブサイト内の掲出や、次年度以降の大会のポスター・プログラム等に使用される可能性がある。

- 費用 (1) 旅費交通費支給はなし。
(2) 各都道府県協会にて、参加費は別途定める。
- 表彰 (1) 優秀チームを表彰する。
(2) その他、各予選大会責任者の判断にてチームを表彰する。
- その他 (1) 運営にかかる費用は別途定める。
(2) 開閉会式は各大会にて別途定める。
(3) 都道府県予選大会の公式戦で使用するタグセット、タグボールは主管団体が用意する。
(4) ブロック大会は大会公式試合球を使用する。
(5) 各チーム帯同コーチ1名は、他のチーム同士の試合のアシスタントレフリーが務められること。

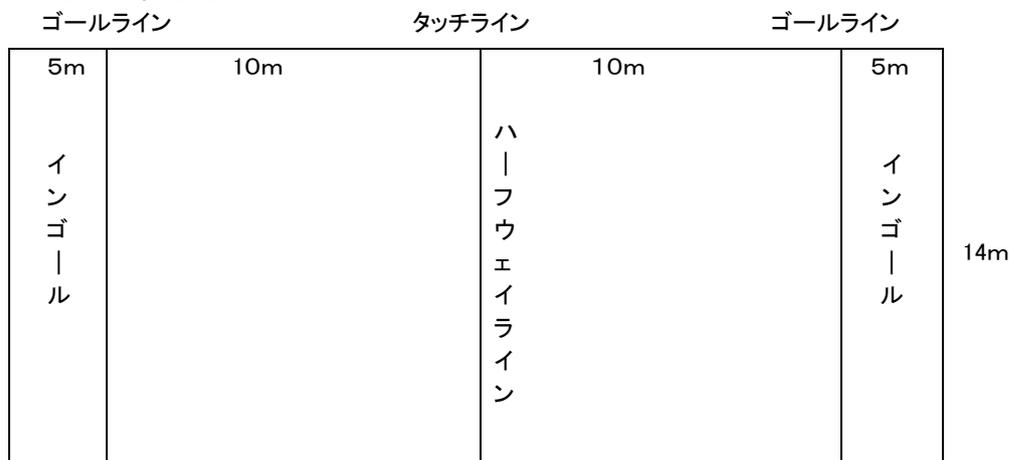
第18回大会 全国大会 大会規則

1 グラウンド

グラウンドサイズは横14m × 縦20m(ゴールラインからゴールライン)、インゴール(ゴールラインからデッドボールライン)は各5mずつとする。

なお、競技場により、上記グラウンドサイズは主催者の判断で、増減することがある。

★本大会用の専用試合コート



2 用具

- (1) 大会期間中に使用するタグセット、タグボール、ピブスは主催者で用意したものを使用する。
- (2) ボールは4号球を使用し、空気圧は0.5 ~ 0.6kg/c m²。
- (3) タグは日本協会規定サイズ(50 mm × 375 mm)。

3 チーム

- (1) 競技グラウンド内にいる4名のプレーヤーと入替可能な2名以上4名以下のプレーヤーから成り、原則として予選大会エントリー時の登録のまま決勝大会に出場すること。ただし、プレーヤーの引越し等が生じてチームの人数が4名~6名になった場合はこの限りではない。その際は、帯同コーチは試合出場ができないプレーヤーについての申立書、転校を証明する書類等を大会本部に提出し、許可を得ること。また、この場合の選手補充は認めない。
 - ① コーチは決勝大会の各試合において、後半開始時まで登録選手を必ず全員出場させること。これに反する場合、相手チームの不戦勝とする。
 - ② 負傷、疾病が続き、出場可能なプレーヤーが5名以下になった場合、公式試合は行えない。
- (2) 試合開始時、試合に必要なプレーヤー及び帯同コーチが揃わない場合、相手チームの不戦勝とする。
- (3) 帯同コーチは成人2名とする(そのうち1名は、他のチーム同士の試合のアシスタントレフリーが務められること)。コーチは試合中に次のことができる。
 - ① 負傷者の救助等でレフリーの指示があった場合に競技グラウンド内に入ること。
 - ② グラウンドサイドの主催者が指定する位置で、チームプレーヤーへの教育的かつ建設的助言を行うこと。
 - ③ グラウンドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの入れ替えに関する管理を行うこと。
 - ④ ハーフタイムに競技グラウンド内に入り、プレーヤーに給水を行うこと。
 - ⑤ グラウンドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの健康、安全管理を行うこと。
- (4) 帯同コーチは大会期間中の選手、自チーム応援者の言動について一切の責任を負う。これができない場合、警告以上の処分が与えられる。
- (5) レフリー、アシスタントレフリー、サブコントローラー、競技役員はチーム、帯同コーチ、観客の言動が悪質な妨害行為にあたりと判断した場合、警告以上の処分を科すことができる。

4 プレーヤーの服装

(1) プレーヤーの服装については以下の通りとする。

- ① チームで統一(スパッツなども含む)された、運動に適した服装(学校体操着など)運動靴またはトレーニングシューズ。スパイクは、一体成型ゴム底のものとし、金属製取替式ポイントは不可とする。
※詳細は別紙資料1を参照
また、スポンサー名・商品名等の入ったユニフォームについては事前に事務局にお問合せ下さい。

(2) プレーヤーは以下のものを着用することができる。

- ① 髪留め(ゴム製)
- ② めがね(試合中に脱落しないよう、固定すること。万が一の接触に備えて、強化プラスチック製のものを着用することが望ましい)

(3) 以下の物については着用を認めない。

- ① 手袋(タグの色と紛らわしいため。また、着用の有無による利益不利益をなくすため)
- ② ギブス等医療装具(着用しないとプレーできない場合は出場させるべきではないから)
- ③ その他、タグラグビーをプレーする上で必要ない物

5 選手の入替え

(1) 入替は以下の時に何度でも可。

- ① ポイント(トライ)後
- ② ハーフタイム開始時
- ③ 負傷でゲームが中断した時

(2) 入替は帯同コーチが交代を管理するサブコントローラーに申し出、レフリーが承認して成立する。入替えが行われている間、試合は再開しない(時間は継続)。入替えを行うチームは速やかに実施できるよう準備する。

(3) 負傷により退場したプレーヤーがその試合に戻ることはできるが、出血している状態で戻ることはできない。

6 試合時間

(1) 試合時間は前半5分ーハーフタイム1分ー後半5分とする。

(2) プレーヤーはハーフタイムには、サイドチェンジを行なった後にチームから飲水を行なえる。ただし、自チームベンチに戻ることはできない。プレーヤーは後半開始時には競技再開ができる位置にいないといけない。
レフリーは、チームの行為が遅延行為にあたりと判断した場合、相手側のフリーパスによる再開を行う。

7 レフリー

(1) マッチオフィシャルは4名もしくは3名(レフリー1名 アシスタントレフリー1名もしくは2名、サブコントローラー1名)とする。

(2) レフリー及びサブコントローラーは主催者が指名する。アシスタントレフリー1名については、全参加チームの帯同コーチの中から主催者が指名する。 ※レフリー及びアシスタントレフリー、サブコントローラーは主催者が指名する

(3) アシスタントレフリーが1名の場合、レフリーは可能な限りグラウンドタッチライン際より判定を行う。また、レフリーの服装はプレーヤーに準ずる。

(4) アシスタントレフリーはタッチライン沿いで以下を行う。

- ① レフリーの判定の補佐。
- ② 選手の入替えの補佐。
- ③ 負傷者のための試合停止の要請。
- ④ 帯同コーチ・観客の悪質な妨害行為のレフリーへの報告。

(5) サブコントローラーはグラウンドサイド、ハーフウェイラインに位置し、以下を行う。

- ① 選手の入替の管理(全員出場の確認を含む)
- ② 得点の確認
- ③ チーム、帯同コーチ、観客の悪質な妨害行為に対する警告並びにレフリーへ妨害行為を行ったチーム、帯同コーチ、観客を報告する。

(6) レフリーはその試合における唯一の事実の判定者であり、レフリーに対して抗議することは認められない。

(7) レフリーは以下の場合に試合を停止することができる。

- ① プレーヤーが負傷し起きあがれない場合。マッチドクターからの要請による場合も同様とする。
- ② プレーヤー、帯同コーチ、観客に注意を与える場合。
レフリーが、以上の理由で試合を停止した場合、再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数は継続）。競技時間を停止する場合、レフリーは明確な方法で試合時間の管理者に伝達する。

8 試合時間の管理と試合の記録

- (1) 試合時間の管理及び試合の記録を行う者は主催者が任命する。
- (2) 試合時間を管理するものは、レフリーの合図により試合時間の進行を止めることができる。
- (3) 負傷者の対応により著しく時間をロスした場合、レフリーは自身の判断でロスタイム分の延長を行なえる。

9 試合終了(ノーサイド)

試合終了(ノーサイド)はプレーの切れ目ではなく時間によって区切られる。レフリーが試合を停止した場合、その試合はレフリーのノーサイドの合図をもって終了とする。

10 試合の勝敗について

ノーサイドの時点で得点数の多いチームを勝者とする。

11 大会形式

※調整中

第 18 回大会 決勝大会 競技規則

1 チームサイド(ベンチ・グラウンド)/キックオフ/ビブスについて

- (1) チームサイド(ベンチ/グラウンド)は、対戦表の左側チームが、メインスタンドからグラウンドを見て左側。
- (2) 試合開始時のキックオフは、対戦表の左側チーム。
- (3) ビブスは、1番から順に着用すること。

2 プレーの方法

- (1) 前半開始はハーフウェイライン中央からのフリーパスで行います。後半開始のフリーパスは前半開始のフリーパスを行わなかったチームが行います。
- (2) 試合中、二本のタグを左右の腰に1本ずつ付け、自分の足で地面に立っているプレーヤーは、競技規則に反しない限り自由にプレーすることができます。

3 アドバンテージ

反則が起きても、レフリーが「反則をしなかった側が有利に試合を進めている」と判断した場合、プレーを続ける場合があります。

4 得点[トライ]とその後の再開

- (1) 左右の腰に1本ずつのタグを着け、自立しているプレーヤーが相手インゴール(ゴールラインを含む)にボールを着けると1点が得られます(「トライ」といいます)。
- (2) レフリーは、防御側の反則行為がなければトライが得られた、と判断した場合、トライ(「ペナルティトライ」)を与えます。
- (3) トライ後の再開はハーフウェイライン中央からトライをとられたチームのフリーパスで行います。
- (4) 次の場合、トライは認められません。これらの場合、ボール保持側の5mフリーパスで試合を再開します(タグの回数は継続します)。
 - ① ボールをインゴールに着けたときに両足がインゴールに入っていなかった。
 - ② インゴールでタグを取られた後、ボールを相手インゴールに着けた。

[補足] このフリーパスはインゴールにボールを持ち込んだプレーヤーがパスをすることで始まります。

5 タグ

防御側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーのどちらかのタグを取り、それを頭上にあげて「タグ」と叫んだら、タグの成立です。

- (1) タグが起きたら、プレーヤーは次のことをしましょう。
 - ① タグを取られたプレーヤーは直ちに前進を止め、ボールをパスします。
 - ② タグを取ったプレーヤーはタグを相手に手渡しして返します。タグを取られたプレーヤーは、すみやかに相手からタグを受け取り、タグを腰に着けます。
- (2) 防御側がタグを4回取ったら攻守交代です。4回目のタグがあった地点でのフリーパスから試合を再開します。
- (3) タッチライン上またはタッチラインの外にいるプレーヤーも相手プレーヤーのタグを取れます。

6 オフサイド(反則)

タグが起きると、タグを取られたプレーヤーがボールを離れた地点を基準として、ゴールラインに平行なオフサイドラインができます。

- (1) オフサイドラインの前方にいる防御側のプレーヤーは速やかにオフサイドラインの後方に下がります。
- (2) 下がりきれない防御側プレーヤーはボールを持った側のプレーヤーがパスをしたり走ったりするのを妨げないようにします。

7 ノックオン・スローフォワード(反則)

- (1) プレーヤーがボールを受け損ねたり、ボールが腕や手に当たったりして、ボールが前に進むことを「ノックオン」といいます。
- (2) プレーヤーがボールを前に投げる、あるいは前にパスすることを「スローフォワード」といいます。

8 フリーパス

「フリーパス」とはボールを持ったプレーヤーがその位置から動かずに、レフリーの合図で、自分より後方の2m以内にいるプレーヤーにパスをすることです。

- (1) フリーパスは、前後半の開始、トライの後、6・7の反則があったとき、その他ルールで定められているときに行われません。
- (2) フリーパスのとき、防御側のプレーヤーは、すみやかにフリーパスの地点から5m下がります。ボールがパスされれば、前に出てもかまいません。
- (3) インゴール及びゴールラインから5m以内のフィールドオブプレーではフリーパスは行われません。この地域でフリーパスは、反則等があった地点に近い、ゴールライン前5mの地点から行います(「5mフリーパス」といいます)。

9 タッチ

ボールを持ったプレーヤーがタッチラインを踏んだり超えたりした場合、また、投げたボールがタッチラインに触れたり超えたりした場合は「タッチ」となります。再開はタッチになった地点から相手側のフリーパスで行います。ボールはタッチラインの外にいる、またはタッチライン上のプレーヤーが投げ入れます。

10 インゴール、タッチインゴール

- (1) ボールを持ったプレーヤー及びボールが、タッチインゴール及びデッドボールラインに触れた、または超えた場合、その直前にボールを保持していなかった側の5mフリーパスで試合を再開します。
- (2) プレーヤーが自チームのインゴールにボールを着けた場合、相手側の5mフリーパスで再開します。

11 禁止事項

試合中、プレーヤーは以下の行為をしてはなりません。これらが起きた場合、その地点で相手チームにフリーパスが与えられます。

- (1) 相手選手と接触・衝突すること。接触・衝突につながる行為をすること。
- (2) タグを取る以外の方法で相手の攻撃を止めること。
- (3) 相手をかかわす以外の方法で、相手がタグを取るのを邪魔すること。
- (4) その他、タグを投げ捨てたり、相手に文句を言ったりなど、周囲の人たちを嫌な気持ちにさせる全ての行為。

12 その他

競技規則にない状況が起きた場合、レフリーは試合停止を命じ、停止直前にボールを保持していた側のフリーパスで再開します。その時、タグの回数は継続します。

全国小学生タグラグビー大会

大会規則・競技規則補足

この「補足」は、全国小学生タグラグビー選手権大会に出場するチームの指導者、観客、レフリーが共通で理解していただきたい事柄です。プレーヤーが楽しく、安全にタグラグビーを楽しめる環境を作るため、以下についてご理解並び周知、ご指導いただきたく、お願い申し上げます。

1 試合進行に対する悪質な妨害について〔大会規則3(4)(5)、7(4)(5)〕

(1) レフリー(アシスタントレフリー、サブコントローラーも含む)並びに競技役員はプレーヤー、帯同コーチ、観客の行為が試合進行に対しての悪質な妨害であると判断した場合、該当者に警告以上の処分を科す。悪質な妨害行為とは次の行為を指す。

- ① 時間を空費する行為
- ② 故意の反則
- ③ 相手が反則をしているように見せかける行為
- ④ 暴力行為
- ⑤ 自チームならびに相手チームプレーヤーへの暴言
- ⑥ 競技役員、レフリー・アシスタントレフリー、サブコントローラーへの暴言
- ⑦ その他、レフリー、アシスタントレフリー、サブコントローラーが試合進行の妨げになると判断した行為。
- ⑧ レフリングのコールをすること。

→罰:プレーヤーは警告以上の処分が科せられる。再開は相手側フリーパス。相手がフリーパスの権利を有している場合には再開地点を5m前進させる。帯同コーチ、観客は警告以上の処分が科される。追加処分が科せられる場合もある。

(2) 試合中に上記の行為が起きた場合、レフリーは次のように対応する。

- ① プレーヤーに対しては警告以上の処分を科し、問題行動のあった地点から相手側フリーパスで再開する。
- ② 帯同コーチ、観客の行為については、問題行為が起こった時点で警告以上の処分が科される。レフリーは必要に応じて試合を中断することができる。その場合の再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする(タグの回数は継続)。アシスタントレフリー、サブコントローラー、競技役員が妨害行為をレフリーに報告した場合、レフリーは当該の者にハーフタイムまたは試合終了後に警告以上の処分を科す。
- ③ 警告以上の処分を受けたプレーヤー・帯同コーチ・観客は、試合終了後、直ちに大会本部に出向き、追加処分を受ける。プレーヤー、及び自チームを応援する観客が注意を受けた帯同コーチも同様である。

(3) 退場を命じられたプレーヤー、帯同コーチ、観客への罰について

- ① 試合中に退場を命じられたプレーヤーについては入替プレーヤーを認めない。プレーヤーの退場は原則として当該試合のみ有効とし、次の試合への出場は認める。
- ② 帯同コーチ及び観客の退場は終日有効である。原則として翌日以降には持ち越さない。

2 タグラグビーのプレーについて

(1) 腰に2本のタグを付け、自立しているプレーヤーは、相手プレーヤーと接触もしくは接触を誘発しないかぎり、次の行為ができる。

- ① ボールを持って自由に動くこと。
- ② 自分の真横、もしくは自分の後方にボールを投げること〔パス〕。
- ③ 空中にあるボールを捕球すること。
- ④ 地面にあるボールを拾うこと。
- ⑤ 保持しているボールをインゴールにつけること。
- ⑥ ボールを持っているプレーヤーのタグを取る。プレーヤーがタッチライン上、またはタッチラインの外にいても同様である。

(2) プレーヤーは次の行為をしてはならない。

- ① 2本のタグをそれぞれ左右の腰につけずにプレーする。
- ② ボールを持っていない相手プレーヤーのタグを取る。
- ③ ボールを離れたときの位置より前方にボールを投げる〔スローフォワード〕。
- ④ 保持している、または手に触ったボールを前方に落とす〔ノックオン〕。ただし保持しているボールを地面に着けただけではノックオンにはならない。
- ⑤ 相手をかわず以外の方法でタグを取ることを妨げる。
- ⑥ 相手のボールを奪う
- ⑦ あらゆる種類のキック。
- ⑧ レフリングのコールをすること。

3 接触行為の禁止

全てのプレーヤーは相手選手と接触をしないように努めねばならない。一切の接触行為並びに接触につながる行為をしてはならない。帯同コーチは、自チームのプレーヤーに接触行為並びに接触につながる行為を行わせない義務を負う。特に、以下の行為は厳禁とする。

① ボールを持っている時

- ・ 防御側プレーヤーに対し、体当たりをする、あるいはハンドオフ、タグを取りに来た手を払うなどの接触行為。
- ・ 防御側プレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には以下のような行為を指す。
 - 待ちかまえている防御側プレーヤーに向かって、または接近して過度の速度で直線的に走る。
 - 複数のプレーヤーが近接して待ちかまえている狭い間隙を、過度の速度で走り抜けようとする。なお、選手間の間隙が狭いか否かはレフリーが判断する。
 - 防御側プレーヤーとの接触が予見されるにもかかわらず進路、速度を変更しないで走る。
 - タグを取られることが予見されるにもかかわらず、強引に直線的に走る。
 - タグを取られた後、停止・パスをしようとせずに前進する。
 - 進行方向に背中を向けて走る、相手をかわすために1回転以上回転する。等

② 防御するとき

- ・ タックル、あるいは体を接触させながらタグを取る、タグを取った後相手プレーヤーと接触する等の接触行為。
- ・ ボールを持っているプレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には次のような行為を指す。
 - タグを取りに行く際に、自分からは遠い側のタグを取りに行く。
 - タグを取った後、ボールを持っているプレーヤーとの接触が避けられない体勢、速度でタグを取りに行く。
 - 接触が予見されるにもかかわらず、進路や速度を変えずに走り、タグを取りに行く。
 - ボールを持っているプレーヤーの後方から抱きつくようにしてタグを取る。
 - ボールを持ったプレーヤーの進行方向に足を出す。
 - ボールを持ったプレーヤーの進路を、身体や足でふさぎながらタグを取ろうとする。具体的には、ボールを持ったプレーヤーと正対した際に、接触する直前までタグを取ろうとせずに前進したり、相手を逃げられないような状態に追い込んでタグを取ったりする等の行為を指す。
 - 両手を広げて防御をする。
 - タグを取りに行く姿勢を取らずにボールを持っているプレーヤーに接近したり、ボールを持ったプレーヤーの前に立ちはだかったりする、等。

4 タグ並びにタグの返し方

- (1) プレーヤーは相手のタグを取ったときには、大きな声で「タグ」とコールするとともに、取ったタグを頭上にかかげるように努めること。
- (2) タグを相手に返すときは、必ず手渡しで相手に返すこと。タグを投げつける、押しつける行為はタグを返す行為として認めない。
- (3) タグを受け取ったプレーヤーは、必ずその場でタグをつけてから再びプレーに参加すること。

5 フリーパス時の注意

- (1) フリーパス時、防御側のプレーヤーは、フリーパス開始地点より速やかに5m下がらなければならない。
- (2) レフリー並びにアシスタントレフリーは、防御側プレーヤーの後退並びに静止を確認してから「プレイ」のコールをかけること。
- (3) 防御側プレーヤーの後退・静止が十分ではない状況で競技が始まった場合は、レフリー並びにアシスタントレフリーは直ちに競技を停止し、プレーヤーに注意を与えた上で再びフリーパスを行わせる。指導にかかわらず後退・静止ができない場合、攻撃側に違反のあった地点でのフリーパスを与える。

感染症予防について

「日本協会主催大会開催プログラム」の内容を一部転記させていただきます。

なお、本注意事項は、あくまでも日本ラグビーフットボール協会が主催する大会を対象としており、各地域支部及び都道府県協会等において大会の開催を計画する際には、本注意事項を参考にしつつ、大会の規模、目的、参加対象、当該地域における自治体や管轄当局の指導などを十分に考慮しながら、検討及び計画いただければと思います。※こちらは抜粋になりますので、日本ラグビーフットボール協会公式ウェブサイト内「2021年5月13日改訂）日本協会主催大会開催プログラム」(<https://www.rugby-japan.jp/news/2021/05/14/50484>)を併せてご確認ください。

1 基本的判断基準

大会開催を検討する際には、以下の条件がそろっていることを基本的判断基準とする。

- ①政府の緊急事態宣言が解除されており、かつイベント開催の自粛要請並びに都道府県をまたぐ移動の自粛要請が解除されている
もしくは、緊急事態宣言等により示される要請に、具体的なイベント開催に対する指針が示されており、当該試合の開催が可能と判断されている
- ②政府や自治体によるイベント開催の自粛要請に、大会規模についての基準や分類がある場合は、その基準に照らしあわせて当該試合の自粛要請が解除されている
- ③大会の会場、宿泊施設等が運営されており、移動手段を含め、大会に必要な環境が確保できる
- ④参加チームの母体が活動を再開している
※学校の場合は休校／施設封鎖等の解除、部活動の再開が行われている
- ⑤参加チームに十分な練習期間が確保されており、選手が身体的に試合に出る準備ができています
- ⑥選手及びチームスタッフ、選手会、選手の保護者など参加者の同意が得られている
- ⑦大会開催のための十分な医療体制・施設が整っている
- ⑧大会共催者・協賛社等の合意確認がなされている
- ⑨予選が必要な大会については、予選大会が実施されている
※大会に応じて、予選方式の変更等を含め、予選大会の内容については検討され、合意されている
- ⑩上記の項目を踏まえた上で、日本ラグビーフットボール協会内の関係部署において大会実施が妥当との判断がなされ、合意されている

2 開催可否の判断時期

大会の開催可否の判断時期については、段階的な判断や判断時期に伴う開催方法の変更等、大会の特性に合わせ、大会により異なる判断が求められるが、以下のような要素を検討し判断する。

- ①試合に必要な最低限の練習期間
- ②関連施設や運営人員と移動手段の確保
- ③各施設や取引先とのキャンセルポリシーに基づく期日

3 開催の場合の大会の開催方法

- ①普及大会及び非興行大会については、政府あるいは自治体等による、イベントの開催に関する制限がすべて解除となるまでは、原則として無観客試合で実施することとする
但し、政府、自治体等によりイベント開催のガイドラインが示されており、それと照らし合わせ、有観客での開催が可能と判断される場合はこの限りではない
- ②無観客試合において、会場内に入場できる関係者の範囲をチーム関係者のみとするか、保護者等も含めるか等の判断については、その時点における状況に鑑みて大会ごとに定めることとするが、極力少人数とすることを検討する
- ③いずれの場合も、後述の「4項」に定める運営方法を遂行できる試合会場における体制を整えることとする

4 大会の運営方法

チームの活動が再開し、試合の準備が整い大会を開催する場合、当然ながらこれまでの運営方法と異なる配慮や手配、意識の徹底が必要になるが、試合会場における留意点としては以下のような点が挙げられる

- ①試合の日の前日あるいは当日に、適切な方法、範囲で会場を清掃する
- ②会場における手指消毒液や体温計等の資材を用意する
- ③アクセディテーション（AD）コントロールなどにより、会場を出入りする人が所定の位置で確実に管理されるようにする
- ④AD保有者に事後的に個別に連絡が可能となるよう、名簿を整備することとし、最低でも各関係者の代表者の連絡先を確保し、代表者はADを受領し当日会場にアクセスした個人の連絡先を保有していることを徹底する

⑤会場に出入りする関係者は必要最低限の人数とする

⑥全ての関係者は以下に従うこととする

6-1 選手、チームスタッフ、マッチオフィシャルがピッチ上で活動する場合を除きマスクを着用し、手指衛生のための消毒をすること

6-2 個別の手指消毒液や使い捨てのウェットティッシュを携帯し、使用すること

6-3 自宅及び会場への入場前に検温を行うこと

6-4 不要な会場内の諸室への出入りを行わないこと

⑦全ての関係者が会場に入場する際の必須条件として、以下の項目を含む書面での確認を提出する

7-1 現在、以下に記載の項目を含め、COVID-19 の感染の兆候が一切見られないこと

7-1-1 COVID-19 に関係するいかなる症状も直前の 14 日以内に見られていないこと

7-1-2 生活を共にする家族等にも COVID-19 に関係するいかなる症状も直前の 14 日以内に見られていないこと

7-1-3 COVID-19 の感染者や感染が疑われる人に直前の 14 日間に接触していないこと

7-2 高校生以下の大会において、出場選手の保護者が大会の参加に同意していること

7-3 大会の医療従事者、及びチームのメディカルスタッフにおいては、直前の 14 日間に COVID-19 の感染者や感染が疑われる人を診察する際に、全ての感染防止対策を行い、適切な個人防護具（PPE）を着用していること

7-4 医学的知見が必要な分野においては、専門家のアドバイスを仰ぎ、適切に対処する

7-5 会場計画において、以下の点を検討しマニュアルなどに明示する

7-5-1 会場における手指消毒、手洗い場の場所の詳細

7-5-2 会場における人の出入りの管理方法の詳細

7-5-3 会場内における人の動きを最小限にできるように設計された会場計画

7-5-4 飛沫感染を防止するための、選手と関係者に対するガイドライン

7-5-5 可能な範囲で、入り口もしくは、その付近に検温場所を設置して検温を行い、発熱や咳嗽などを認める体調不良の参加者は施設に入場させずに帰宅させ、必要に応じて保健所や医療機関への相談あるいは受診を促すこと

7-5-6 観客や関係者に感染が疑われるものが発見された場合の隔離方法や動線等

7-5-7 感染が疑わしき人物が発見された場合の試合の継続・中断・中止、また、その場合の試合や記録の取り扱いに関するポリシー

7-6 試合後直ちに、適切な方法、範囲で会場を清掃し、ドアノブなどの高頻度接触部位は 0.05%次亜塩素酸ナトリウムあるいは 70%以上のアルコールを用いて消毒する

7-7 観客を入れて大会再開を行う場合は、以下の点を検討項目とし、その時点の状況に鑑みてポリシーを決定する

7-7-1 一部の座席の封鎖等観客が密接して着席しないようにするための施策

7-7-2 観客入場の際の検温の実施の有無と方法

7-7-3 運営関係者用のマスク、観客用消毒液の数量と確保方法

7-7-4 消毒液の設置場所と管理方法

7-7-5 売店や各種ブースの実施の可否と実施する場合の数、場所、運用方法

7-7-6 観客に感染が疑われる事象が発生した場合の手順と隔離場所の確保

7-7-7 上記の周知徹底方法